

朝日新聞

「今夜、逮捕します」26年経て動き出した時間 名古屋女性殺害事件

有料記事

高橋俊成 野口駿 2025年11月13日 6時00分

10月31日午後、愛知県警西署の一室。

小さな机を挟み、高羽悟さん（69）は、県警捜査1課の男性警部と向き合っていた。

この日、「重要な話がある。他の用事をなげうって来てほしい」と呼び出された。

到着すると別の捜査員もいたが、すぐに退席し、2人きりになった。警部は切り出した。

「26年間かかってしまい、申し訳ありませんでした」

そして、続けた。

「今夜、逮捕します」

警部の目は潤んでいた。



高羽奈美子さん=1999年10月20日、悟さん提供撮影 

1999年11月13日、悟さんの妻、奈美子さん（当時32）が自宅アパートで殺害された。警部は未解決事件を扱う「特命捜査係」に所属し、昨年春から、奈美子さんの事件の捜査を担当してきた。

「悟さんが知っている人です」

「えっ」。だが、口をついて出た。「高校の同級生？」

「当たりです」と警部。

悟さんは、高校時代の運動部が一緒だった1人の女性を思い出した。「山口久美子？」

「当たりです。何でわかったんですか」

「山口」は、数時間後、殺人容疑で逮捕されることになる安福久美子容疑者（69）＝名古屋市港区＝の旧姓。



高校時代の安福久美子容疑者＝関係者提供 

なぜ……。恨みを買うような、思い当たる節はない。でも、高校の同級生で思い浮かんだのは彼女だった。

高校時代、バレンタインデーにチョコレートをもらったり、好意を告げられたりしたことがあった。卒業後は県内の別々の大学に進学したが、大学に来たことも。喫茶店に連れていき、「受け入れられない」と伝えたと、泣き出した。

それから約20年の時をはさみ、99年6月にあった部活の同窓会で再会した。「結婚して子どももいて、家事も仕事もして大変」と明るく話しかけられた。

奈美子さんが自宅で遺体で見つかったのは、その5カ月後。玄関には犯人のものとみられる血痕が残り、現場近くには不審な女を目撃情報もあったが、容疑者の特定には至らず、捜査は難航した。

雨で流れた血痕、繰り返したDNA型鑑定

愛知県警の元捜査員は捜査が難航した背景をこう指摘する。「当初の捜査は、被害者の周辺に重点が置かれ、高羽悟さんの周辺の捜査は十分ではなかった。灯台下暗しだった」

悟さんは、安福久美子容疑者から高校時代に好意を寄せられたことを警察に話していなかった。事件直後に部活の同窓会の名簿は押収され、「すでに警察が当たっていて犯人ではな

いと思っていた」。元捜査員は「高校時代や同窓会のことを聞き出せていなかったのは警察の方だ」と指摘する。

初動捜査に注目する元捜査員もいる。「事件現場から血痕が外に続いていたが、その追跡が十分でないうちに、雨で血痕が流されてしまった」と明かす。



犯人のものと見られる血痕=2025年5月1日、名古屋市西区、小玉重隆撮影 

こうした中、室内の血痕は科学捜査研究所の冷凍庫で長期にわたり保管されていた。当時のDNA型鑑定の精度は現在ほどではなかったが、「将来技術が進歩したときに備えて重要資料は保管していた」（捜査員）。また、DNA型鑑定の精度が上がるごとに鑑定をし直し、その都度、型を登録していた。

「解決します。悟さんには申し訳ないが、この事件ではビラ配りからは犯人は挙がらないと思う。必ず犯人は、集めた関係者のリストの中にいる。1件、1件つぶしていきます」

昨年春、事件の担当になった「特命捜査係」の警部は悟さんにこう言い切った。

3回目でDNA提供した容疑者

県警は関係者5千人以上から聞き取りを続けてきた。昨年、捜査を見直し、容疑者の候補として数百人をリストアップ。十分に事情を聞けていない人やDNA型鑑定のための資料が入

手できていない人を整理した。

順次当たっていく中で、今年8月、県警は安福容疑者から話を聞いたが、容疑者はDNAの提供を拒否した。「拒否されるなら、何とか提供してもらわないといけないとなる」（捜査幹部）

その後、改めてDNAの提供を求めたが、2回目も拒否。

ところが、10月30日、事態は急転する。捜査員が自宅を訪問すると、3回目にして初めて提供に応じた。県警は口の中のDNAの提供を受けた。



事件の経緯などについて話す愛知県警の村上健司刑事部長（左）＝2025年10月31日午後7時28分、名古屋市中区、小玉重隆撮影 

そして、その夕方、安福容疑者は県警西署に1人で現れ、事件への関与をうかがわせる説明をしたという。

翌31日午前、現場の血痕と安福容疑者のDNA型が一致することが判明。殺人容疑での逮捕に踏み切った。止まっていた時間は、事件から26年を目前に再び動き出した。

逮捕直後は「合っています」と容疑を認めていた。「毎日不安だった。事件の発生日ごろになると悩んで気持ちも落ち込んだ」「8月に警察が来て、捕まってしまうと覚悟した」とも話していた。

現在は黙秘し、供述を拒否しているという。

26年経ての逮捕「次は私たちの番」 時効廃止求めた遺族、思い新た →
DNA型鑑定、年間20万件 「捜査に欠かせない」 過信で誤ることも →

名古屋・女性殺害事件をめぐる捜査などの動き

警察や関係者への取材から

1999 11月 年 13日	高羽 悟さんの留守中、妻の 奈美子さんが自宅で殺害される
2009 2月	殺人事件被害者遺族の会「宙 の会」が発足、悟さんも参加
2010 4月	法改正で殺人事件などの公 訴時効が廃止される
2015 4月	愛知県警が犯人とみられる女 の似顔絵などを公開
2020 2月	警察庁が捜査特別報奨金の 対象事件に指定
2025 8月	愛知県警が安福久美子容疑 者にDNAの提供を求めるが 拒否される。以降も拒まれる
10月 30日	安福容疑者がDNAの提供に 応じ、出頭
10月 31日	現場の血痕と安福容疑者の DNA型が一致、容疑者を逮捕

5千人以上に
聞き取りなど

2024年
捜査の見直し
で数百人を
リスト化

順次、
DNAの
提供を
求める

名古屋・女性殺害事件をめぐる捜査などの動き

朝日新聞のデジタル版に掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.